

「ディスカバー<sup>むら</sup>農山漁村の宝」(第7回選定)

有識者懇談会概要

1. 日時：令和2年11月4日(水) 15:00~15:30
2. 場所：総理大臣官邸2階大ホール
3. 出席者：宮内農林水産副大臣、三ツ林内閣府副大臣、坂井内閣官房副長官、岡田内閣官房副長官、西川内閣官房参与、藤井内閣官房副長官補、牧元農林水産省農村振興局長  
林座長、あん委員、今村委員、織作委員、田中委員、永島委員、藤井委員、三國委員、横石委員

4. 概要：

(林座長)

- ・本日は、第7回選定となる「ディスカバー農山漁村の宝」の選定地区及び選定者の決定並びにグランプリ及び部門賞の選定について御議論をいただくので宜しくお願いしたい。

【事務局説明及び意見交換】

(牧元農村振興局長から、資料に基づき、第7回選定の選定地区及び選定者並びにグランプリ及び部門賞の候補について説明。その後、委員等からいただいた主な意見は以下のとおり。)

- ・若者が農山漁村の活性化においてリードしていることに感銘を受け、女性の力も感じた。日本の農山漁村には魅力のある人材が沢山いることが今回のディスカバーで発見できて良かった。
- ・コロナ禍での選定において、①地方での人の絆、第1次産業や環境保全に価値が見いだされたこと、②若者や女性は、難局におけるパワーやバイタリティが際立っていたこと、③ポスターやキャッチコピー、SNS等の活用におけるPR展開が上手になっていることなどを感じた。
- ・地域の老若男女が活躍して元気な農山漁村であって欲しいという願いを持って選んだ。応募の中から3校の高校生の活躍ぶりが選ばれたということで、今後の日本を担う若者の活躍に期待を感じることができた。  
「ディスカバー農山漁村の宝」の認知度向上に貢献する目的で選定しているアンバサダーのような取組は、良い取組なのでもっと活用すると良い。今回選定された個人部門の石垣さんも素敵なので、SNSで発信することでスターになれるかもしれない、そのことで農山漁村が注目を浴びることになるかもしれない。
- ・今回は、6次産業化や女性活躍、民泊等を初めから有効な手法やツールとして取り込み、新たな価値を作り出すということに成功している地域が多かったと思う。  
学生や外国人、多様な産業の人を最初から集めて理想に向けて活動している姿というのは持続可能な成長そのものであり、成長し続ける仕組みができていると思う。  
地域の具体的な表情が見たいという都市部の人が多く、生き生きと魅力的な活動をしている人たちの姿は、社会に広くインパクトを与えるものであり、影響力の拡大に磨きをかけてもらいたい。

- ・今回の選定では、島根県のウッドスタイルというところが竹を平らにして製品化する取組を行っていたが、トルコは日本と緯度的にも近く竹があり、食材も日本に似たところがある。また、トルコはイスラム圏での関心が非常に高く親日でもある。トルコに1ヶ月近く滞在したことがあり繋がりもあるので、今後、トルコへの日本の農産物の輸出を試みていきたい。
- ・関東に近い所は非常に実績があると感じるが、最終的にグランプリまでは取っていない。人口が集中しているところよりも地方の方に高い評価が偏ってしまうところがあるように思う。  
GoTo トラベルや GoTo イートは実績が出ていて素晴らしいが、ディスカバーに応募している6次産業や農泊をやっている農家などへの影響が少なくカバーしきれていない。密になりやすいビジネスではあるが、このようなところを救わないと来年以降は応募数が減ってきてしまう危機感がある。
- ・農水産物は出口であるお店が非常に困っており、生産者もレストランが買ってくれないことで困窮している。せっかく応募が沢山あるので、是非、国として出口対策を行って欲しい。  
北海道では、1次産業を6次産業に変えていくことに取り組んでいるが、国として何か手助けを考えて頂きたい。
- ・若い世代、特に高校生の活躍がこのような賞で評価されるということは待ち望んでいたこと。小中高校生の頃から地域の課題を学ばせて解決させていくような教育が必要だと思う。そのためには、このような形で評価して追い風を作っていくことが大事。また、親が子供に農業高校に行かせて良かったと評価して頂けるような取組になれば嬉しい。
- ・このコロナ禍の中での794件の応募は本当に予想外であり凄いことだと思う。更に件数が多いだけでなく内容も良くなっており、若者の活躍が目に見え、発信も上手になってきている。コロナ禍で農業に対する理解が深まったのではないか。今後は、それを更に加速させることが重要だと思う。

(坂井内閣官房副長官)

- ・地域の可能性に気付き、熱意を持って関係者に働きかけられるような、核になる人がいれば、成功できる環境が整っていると思うが、このような意識とやる気・やりがいを持っている人が今は少ないのではないかと感じる。
- ・地域にある可能性を今回のディスカバーで見つけてきた訳だが、宝を実際に活かして形にするための鍵となる人をいかに各地域で増やしていくかということを考えていく必要がある。

(宮内農林水産副大臣)

- ・(委員よりコメントのあったコロナ禍で行き先を失った農水産物の) 出口対策の話があった。今回このような形で素晴らしい取組が選定されたが、その後の支援策やサポートについても、是非色々のご意見を頂きながら次の生産的なことに繋げていって頂きたい。

(林座長)

- ・意見交換を終了する。
- ・第7回選定の選定地区及び選定者並びに第7回選定のグランプリ及び部門賞について案の

とおりで了承することによろしいか。

(異議なしの声)

(林座長)

- ・それでは決定とさせていただく。
- ・三ツ林内閣府副大臣から御挨拶賜りたい。

(三ツ林内閣府副大臣)

- ・今年度も地域の実情を踏まえた、特色ある取組が選定され、地方創生に直結するものが多かったと感じる。政府としては、活力ある地方を創り上げるために、豊かな自然、観光資源、文化といった地域が誇る資源を最大限に活かし、地方創生政策を推進している。
- ・地方創生を体現している、「ディスカバー農山漁村の宝」の選定事例に続こうとする新たな取組が全国各地で広がっていくことを期待している。

(林座長)

- ・閉会に当たり宮内農林水産副大臣よりご挨拶賜りたい。

【閉会挨拶】

(宮内農林水産副大臣)

- ・今回の選定では、地元農家の GAP 認証の取得支援や GAP 食材を利用した東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン交流に取り組んでいる高校が、高校初のグランプリに輝いたり、河川の環境保全に取り組む高校が部門賞に輝くなど、特に若い力が光った。
- ・部門賞においても、畜産の6次産業化や飼料用米の生産による耕作放棄地の解決にも取り組む団体や、災害にも負けずプレミアムトマトジュースの輸出にも取り組む団体、ブランド野菜でまちおこしに奮闘する団体の若手農家の皆さんが賞に輝いた。
- ・個人賞には、秋田県大館市で地域活性化に長年取り組み、農泊を海外にも売り込んでいる方が受賞した。
- ・我が国の農山漁村には大きな可能性があり、今回選定された各地の取組の積極的な横展開を行い、農業の成長産業化と魅力あふれる地域づくりを更に進めていきたい。

【閉会】

(以上)